



研究部だより

令和6年(2024年)10月3日発行

第3号

担当:山本

暑さが厳しかった夏も終わり、過ごしやすい季節になってきて、あっという間に10月に突入です。研究部だより第3号では、高等部1年生と小学部3組の授業実践と「2024SAPPORO ポジティブ行動支援サマーセミナー」の研修報告を掲載しました。日々の授業作り等の参考にご活用ください。

ICT を活用した授業実践①

高等部1学年 生活単元学習 単元名「健康と生活」題材名「歯磨きの重要性を伝えるポスター作り」

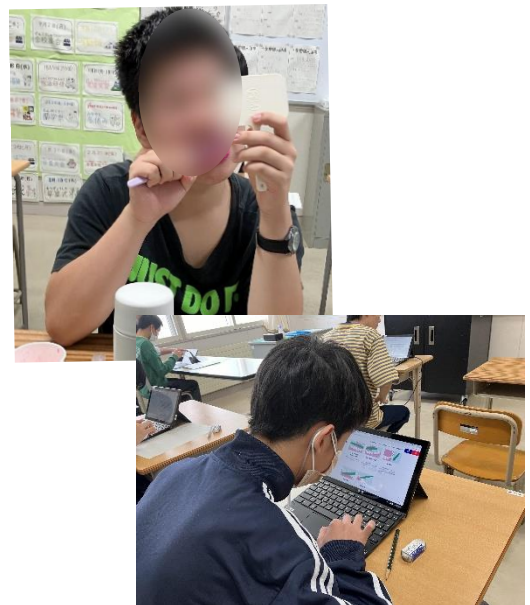
授業者 濱崎先生・池田先生

対象生徒の様子

- ・高等部第一学年24名が、「健康と生活」の単元の中で健康で豊かな生活を送ることができるよう、歯磨きについてタブレット端末を使用して学習に取り組んだ。
- ・今回紹介するグループは、高等部第1学年のAグループで、中学校からタブレット端末の操作を授業で行っており、スムーズに入力したり必要な情報を検索したりすることができる生徒10名である。

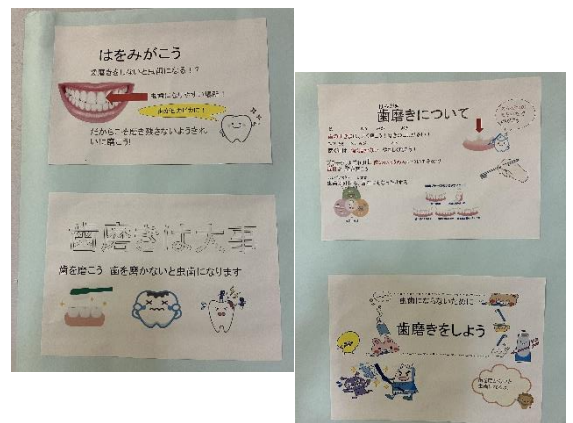
ICT 活用の意図

- ・単元の中で、虫歯の原因（プラーク・ミュータンス菌・糖質・歯の質）やブラッシング方法について学習し、実際に自分の前歯を染め出しして歯垢が付着しているところを丁寧にブラッシングし歯垢を落とす体験をした。自分で上手に磨いているつもりでいても、歯ブラシの毛が届きにくい部分に磨き残しがあり、歯垢が溜まりやすいことを理解した。
- ・今回紹介する授業は、学習した歯磨きの重要性を、誰にでも分かるように文字ではなくビジュアルで伝えるため、Googleslideを活用した。



ICT 活用の成果

- ・主指導の教師が、1m離れても分かりやすいデザインにするよう授業の中で伝え、タイトルの文字の大きさや、印象的なキャッチコピー、ポスターに載せる情報の精選をし、それぞれ工夫して一枚の作品を作り上げた。事細かに文字で説明せず、一枚に紙に伝えたいことを整理し、人目を引くイラストをタブレット端末を使って検索し、個性豊かな作品が完成し、高等部第一学年の廊下に歯磨きの重要性を伝えるポスターを掲示することができた。



ICT を活用した授業実践②

小学部3組 自立活動「伝えたいことを伝える」

授業者 野呂先生

対象児童の様子

- ・コミュニケーションに関しては、大人が話す単語や会話をほぼ理解している。
表出の面は発語が難しく、舌を出して肯定を伝えている。身体の緊張が入ってうまく伝えられない時もある。伝わったかどうかは、本人の表情ではっきり読み取ることができる。
- ・自分の思いをファイル式のものを使用して相手に伝えている。平仮名や数字などの文字カードから、教師の指さしや「この中にある？」などの問い掛けに対して、舌を出して答える。選んだ文字をヒントに、教師が単語を挙げて確認しながら感想文や日記、手紙などを作っている。



ICT 活用の意図

PowerPoint スライドを使用する。



①行を確認

教師が「この中にある？」と聞く

- ・ある場合は、クリック
ここでは「か行」を選択
- ・ない場合は「はまやらわ」のページへ

②教師が1文字ずつ聞く

- ・該当する文字でクリック
ここでは「く」を選択

③でてきた候補の単語を教師が読み上げて確認する。

ない場合は、教師が予想しながら確認する。

- ・教師がカーソルを動かして、本人がスイッチを押すことによって、より主体的に文章作りができる。
- ・使いそうな単語の候補をあらかじめ用意することで、誰にでもスムーズに伝えられるようにする。

ICT 活用の成果

- ・「遠足で楽しみなことは？」の問い掛けに対して、
「あ行」→「あ」→「あるく」と伝える。ウォーカーで歩くのを楽しみにしていることを伝えられた。
- ・「濱崎先生への手紙に書きたいことは？」の問い掛けに対して、
「あ行」→「う」→「うさぎ」と伝える。月見でうさぎが見えたかどうかを濱崎先生に聞きたいことを伝えられた。
- ・伝わったことにより、すごくうれしそうな表情をしていた。
- ・スイッチを押すことでカーソルを自分で動かし、選択・決定することにも取り組んでいきたい



研修報告

報告者 下川原 彩乃

研修名「2024SAPPORO ポジティブ行動支援サマーセミナー」 8月3日

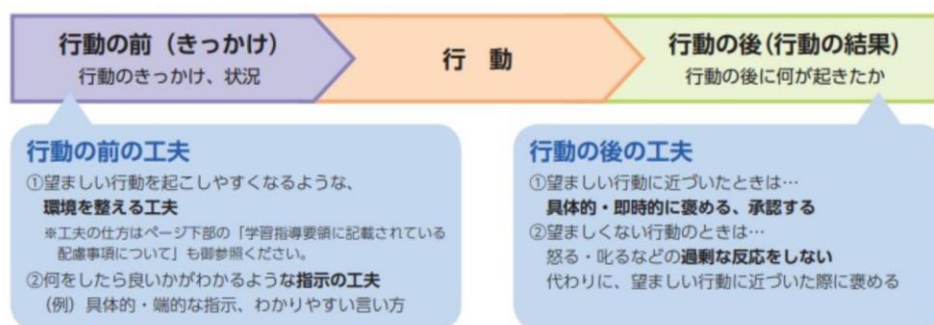
内 容

- ・ポジティブ行動支援を学ぼう
- ・ポジティブ行動支援に取り組もう

学びのポイント

■ポジティブ行動支援の概要

ポジティブな行動支援（PBS）とは、簡単に言うと児童生徒の「望ましい行動を育てる支援方法」です。PBS の考え方には、①予防的な支援を行うこと、②できていることに着目すること、③賞賛や承認から望ましい行動を増やしていくことの3つのポイントがあります。これらの考え方を前提に、児童生徒の行動の前後にアプローチし、「望ましい行動」を増やすための工夫をする必要があります。



■ポジティブ行動支援の実践

ポジティブ行動支援の実践では、教師の指導を問題行動が起きてから対応する「対処的指導」から児童生徒が何か行動を起こした際に「なぜそのような行動をとったのか」その原因を推測し、「予防開発的な指導」への転換することが必要です。予防開発的な指導を行う際には、児童生徒の行動以外にも、教師からの働きかけについても改善をしていく必要があります。以下の内容は改善可能な項目の一部です。児童生徒の指導場面を想像し、学習指導の改善を図っていくことで子どもたちの「望ましい行動」を増やすことにつながっていきます。

	学習環境	学習内容	指導の工夫
教師の働き掛け	・集中できる環境か？ ・座席の配置はどうか？ ・グループ編制はどうか？ ・教室の暑さや寒さは？ ・学習道具が整っているか？	・課題の量は？ ・課題の難易度は？ ・ねらいが明確か？ ・一人で取り組めるか？	・実態に応じた工夫ができているか？（視覚支援の有無など） ・生徒が理解できる言葉で話せているか？

■行動支援計画シートの開発

今回、公演いただいた東京学芸大学の松山康成先生が小学校教員をされていた際に実践した内容です。子どもたち自身が自分たちの行動を振り返り、問題行動を改善するための望ましい行動を検討したシートになります。私たち教員も学習指導や子どもたちの働き掛け方について細かく検討し、改善を図ることによりよい指導につなげたいですね。

